

平成25年度施策評価表

作成年月 平成26年8月

分野名(章)	豊かな資源を生かした産業が根づくまちづくり	分野(章)番号	5
政策名(項)	消費者ニーズに対応した農林業の振興	政策(項)番号	I
施策名(目)	環境保全型農業の展開	施策(目)番号	④
担当課	農林課	担当課長	今村 勝則

1. 施策の基本方針

施策目的	・農業による自然環境への負荷低減を目指して、畜産資源の更なる活用と丸森町独自の農産物認証制度の普及拡大を行うことにより、環境保全を重視した農業を推進し、消費者に安全・安心な農産物の提供を図る。
------	--

2. 施策の現状分析

施策の概況	施策に対するニーズ等(具体的事項)	施策を取り巻く環境(社会環境, 国・県の動向等)							
	・耕種農家からは良質な堆肥の提供を求められている。	・環境問題に対する国民の関心が高まり、食の安全・安心が国民から求められている中で、国・県・農協などにおいても、農業生産全体のあり方を環境保全を重視したものに転換することを推進している。 ・また、環境保全型農業については、国の施策で、有機日本農林規格による有機栽培農産物の検査認証制度や特別栽培農産物に係る表示ガイドラインがある。加えて、県の施策で、エコファーマー認証事業や農産物認証制度がある。							

施策指標(成果指標)	指標の内容	達成度(上段:目標 下段:実績)							
		H23	H24	H25	H26	H27	H27目標	備考(他団体状況含む)	
主要	認証農産物の作付面積	目標			25.ha	25.ha	25.ha		
		実績	9.8ha	9.8ha	10.6ha			25.ha	
		達成率			42%				
参考①	認証農産物の品目数	目標			85品目	85品目	85品目		
		実績	51品目	51品目	47品目			85品目	
		達成率			55%				
参考②	生産及び認証登録申請者数	目標			80人	80人	80人		
		実績	58人	60人	61人			80人	
		達成率			76%				
参考③	排プラ回収事業利用農家戸数	目標			130戸	150戸	150戸		
		実績	87戸	134戸	149戸			130戸	
		達成率			115%				
参考④		目標							
		実績							
		達成率							

3. コストの推移(行政資源投入の状況)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	平成27年度
		(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(当初予算)	(見込み)
事業費		5,654千円	14,223千円	14,278千円	13,891千円	29,569千円	39,317千円
財源内訳	国庫支出金	2,563千円	6,776千円	6,776千円	6,571千円	14,414千円	19,288千円
	県支出金	1,282千円	3,388千円	3,388千円	3,286千円	7,207千円	9,644千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	(うち過疎債)	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	その他特定財源	千円	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源	1,809千円	4,059千円	4,114千円	4,034千円	7,948千円	10,385千円	
従事者数	正職員	0.54人/年	0.54人/年	0.57人/年	0.57人/年	1.73人/年	1.73人/年
	臨時職員	1.00人/年	1.00人/年	1.00人/年	1.00人/年	1.00人/年	1.00人/年
人件費	正職員	3,636千円	3,682千円	3,870千円	3,870千円	11,746千円	11,746千円
	臨時職員	2,209千円	2,209千円	2,210千円	2,198千円	2,210千円	2,210千円
退職給与引当金		468千円	506千円	518千円	518千円	1,573千円	1,573千円
トータルコスト		11,967千円	20,620千円	20,876千円	20,477千円	45,098千円	54,846千円

4. 施策の評価

有効性の評価	施策成果の達成度	c	a達成度は非常に高い b達成度はやや高い c達成度はやや低い d達成度は低い
	[説明]	・平成25年度は認証農産物の作付面積は微増であるが、その達成度はやや低いものとなっている。	
	施策成果向上の可能性	c	a可能性は十分ある bある程度可能である c可能性はあまりない d可能性はない
	[説明]	・慣行栽培と比べて有機栽培や特別栽培は手間と時間がかかるので、それが農産物価格に適切に反映され、慣行栽培より有利な価格で販売できれば、施策成果の向上が期待できる。	
	貢献度	b	a貢献度は非常に高い b貢献度はやや高い c貢献度はやや低い d貢献度は低い
[説明]	・食の安全・安心という消費者ニーズに対応した農業の振興に寄与しているなど、環境保全型農業を推進し、貢献度は高い。		

5. 施策の課題

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・有機栽培しやすい、あるいは無農薬栽培の方法が確立されている農産物が限られていることがあり、一部に偏ることで供給が多くなり、生産者の採算に合うほどの価格が設定しにくくなっている。 ・有機栽培が難しい農産物を一農家が手がけるには、金銭的にも技術的にもリスクが大きすぎるので、新しい農法や採算の取れる有機農業をどれだけ作っていきけるが、「カギ」である。 ・耕畜連携のシステム構築
----	---

6. 施策の方向性

総合評価	この施策の事業費を「維持」して取り組んでいく	次年度以降方針	・耕種農家と畜産農家との堆肥利用供給システムの構築を関係者で検討する。
------	------------------------	---------	-------------------------------------

【総合評価】 拡大、維持、縮小

なお、「総合評価」については、H26の事業費とH27の事業費を比較したのみの評価となりますので、「次年度以降方針」の内容とは異なる場合があります。
必ずしもこの事業費の比較の評価が事業内容に繋がるとは限りません。